

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部長兼血液浄化センター長	根木 茂雄
医 員	南方 大和
医 員	和田 龍也
非常勤医員	松本 直也
非常勤医師	村津 淳

—概要—

腎臓内科の主たる業務は、腎臓内科領域と血液浄化領域のふたつに分けられる。腎臓内科領域では腎炎や慢性腎臓病(CKD)、急性腎障害(AKI)に対する治療が中心で、腎生検を施行して確定診断をつけ、末期腎不全への進行を阻止するためステロイドや免疫抑制薬を駆使して治療を行っている。2020年度の腎生検は44件であった。また、CKD患者に対しては、透析導入を遅らせるよう外来において血圧のコントロールや食事療法、体液管理などを行う。血液浄化領域に関しては、末期腎不全患者に対して合併症のない適切な時期での血液透析導入を心がけている。今年度の導入患者は60例(腹膜透析 4例)であった。また、維持透析患者のさまざまな合併症に関しては他診療科と連携をとり治療を行っている。透析患者において最も重要なバスキュラー・アクセス(VA)に関しては新規の自己血管内シャント(AVF)造設から人工血管(AVG)移植、VAトラブルに対する再建術(AVF,AVG)や経皮的血管形成術(PTA)まですべて当科で施行している。他院から紹介されるVAトラブルの症例に対しては迅速な対応を心がけており、時間外であっても直ちにPTAや手術を施行している。2020年度のVA手術は計75件、PTAは147件であった。透析用カテーテル(短期型,長期型)も必要に応じて当科で挿入している。2020年度の長期留置カテーテルは11件であった。透析以外の血液浄化療法に関しての症例数は多くないが、血症交換療法(単純血漿交換やLDLアフェレシス)も施行して治療を行っている。透析室以外でもICUにおいて急性腎障害を合併した重症患者に対して持続的緩徐血液浄化療法を施行している。腎臓だけに止まらず、さまざまな合併症を有した患者に対して、他診療科と連携して血液浄化療法を施行しながら全身管理を行い治療にあたるのが当科の特色である。

—実績—

入院(腎臓内科主科) (2020.4.1~2021.3.31)

入院目的	件数
腎生検	32
ネフローゼ症候群	21
急速進行性糸球体腎炎	7
IgA扁摘後ステロイドパルス	6
多発性嚢胞腎(トルバブタン導入)	3
電解質異常	15
急性腎障害	8
CKD急性増悪	10
心不全(CKD患者)	22
感染症(CKD患者)	18
その他合併症(CKD患者)	14
透析導入	57
新規AVF手術	21
VAトラブル	21
教育入院	3
計	260

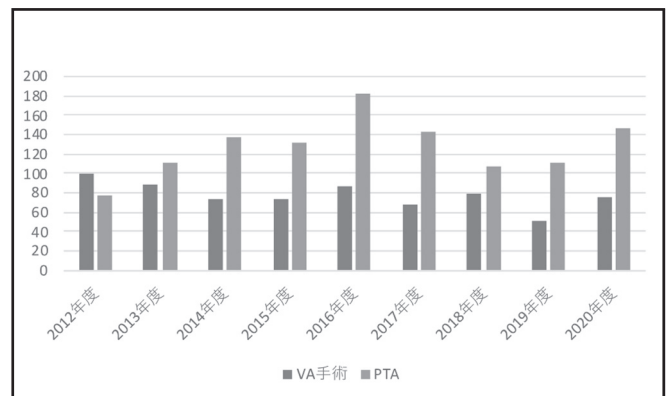
腎生検施行症例の原疾患(44例)

IgA 腎症	17例
膜性腎症	7例
Minor glomerular abnormalities	5例
半月体形成性糸球体腎炎	3例
膜性増殖性糸球体腎炎	2例
C3 腎症	2例
ループス腎炎	2例
糖尿病性腎症	2例
巣状糸球体硬化症	1例
AL アミロイドーシス	1例
ファンconi症候群	1例
分類不能	1例

VA手術症例(75件)

新規AVF	57件
AVF 再建	8例
AVG 移植	6件
AVF血栓除去術	2件
動脈表在化	2件

PTA 件数:147件



PTAとVA手術件数

—今年度の成果と反省点—

昨年度より腎生検の件数、VA手術、PTAは増加した。臨床的には満足できる1年であったが、学会発表や臨床研究など学術的な成果に関しては十分とは言えない。

—来年度への抱負—

泉州地区の透析導入を減らすため近隣の先生と連携してCKD患者の治療を積極的に行いたい。また、臨床だけでなく研究の面も充実させたい。